

式 辞

学び舎から望む山は白い冬のままだですが、かけはしの川面には春のやわらかな光りがそそぐ頃となりました。本日は、多数のご来賓のご臨席を賜り、第42回卒業証書授与式を挙行できますことは、大きな喜びであり、衷心より御礼申し上げます。

ご列席の保護者の皆様、本日はおめでとうございます。この佳き日を迎えるにあたり、これまでのお子様の姿が幾度も思い出され、万感の思いがこみ上げているのではないのでしょうか。心身の変化と成長の大きな高校3年間をいつも見守り、お子様と共に喜び笑い、共に悲しみ悩んだりされたことと、ご拝察いたします。

これからは自分の道を切り開き、歩いていくこととなります。保護者の皆様方に、心から敬意を表し、お祝いを申し上げます。また、本校の教育活動に対しまして、多大なご理解とご協力を賜りましたことに深く感謝申し上げます。

卒業生の皆さん、「卒業おめでとう」

世界中の人々が未知のウィルスと闘い始めてから2年あまりの月日が流れました。大きな波と小さな波が繰り返され、今なお出口が見えません。皆さんが2年生の時には長い休校がありました。総体総文や明峰祭が中止となりました。修学旅行も縮小されました。やるせない気持ちもあったでしょう。3年生となり、「できる方法はないか」を模索しながら教育活動や学校行事を進めました。特に感染が拡大していた中での文化祭では洗練されたステージ発表、大きな声を出せないながらも熱量が伝わり輝いていました。部活動では参加すら叶わなかった先輩方の悔しい思いも背負いながら汗を流し、力を合わせて大会に臨み、最後までやりきりました。そして、日々真摯に学びに向かう姿。朝早くから放課後遅くまで進路実現に向けて努力していました。頑張っているのに思うようにいかなかったこともあったでしょう。受験の重

圧に押しつぶされそうになったこともあるでしょう。変異株が猛威をふるう逆境の中、不安が募ったことでしょう。それでも前を向いて壁を乗り越えてきました。皆さんの背中を見て、後輩たちは多くのものを感じ、考え、学びました。希望と力を与えてくれました。心から拍手を贈るとともに、学校を代表して「ありがとう」のことばも合わせて贈ります。

さて、今の時代、そしてこれからの時代、皆さんにはどのように映っていますか。

狩猟社会・農耕社会・工業社会・情報社会に続く5番目の新しい社会いわゆるSociety5.0の時代の到来、日進月歩で発展するAI技術、空飛ぶ車、民間人の宇宙旅行、多様性の尊重。人口減少社会、格差問題、地球温暖化、自然災害の多発そして国家間の対立・争い。夢と希望、不安と混沌がごちゃ混ぜになっています。何が正解かわかりません。この激動の時代、21世紀を皆さんは生き抜かなければなりません。

ここに2つのメッセージを贈ります。

まず、AIの進歩によって私たちの日常生活や社会経済活動が劇的に変わることが予想されます。一方でAIが超えることのできない人間の能力もあります。経営学者の田坂広志（たさか ひろし）氏は自身の著書のなかで人工知能が代替できない人間の能力として「クリエイティビティ」、「ホスピタリティ」、「マネジメント」があると述べています。

「クリエイティビティ」とは直観判断力に基づく知的創造力のことであり、「職業的能力」のことです。

「ホスピタリティ」とは、傾聴力や伝達力に基づくコミュニケーション力のことであり、「対人的能力」のことです。

「マネジメント」とは人間的魅力や人間力に基づくマネジメント力やリーダーシップ力のことであり、「組織的能力」のことであると田坂氏は述べています。人工知能では代替できないこの3つの力を大事にしてください。

次に、作家の喜多川泰さんのお話にもあった好奇心と向上心を持ってください。そして学び続けてください。喜多川さんは著書「手紙屋 蛍雪編」の中で「勉強という道具は『自分を磨くため』『人の役に立つため』という二つの目的のために使ったときにはじめて正しい使い方をしたといえるのです。」と述べています。「自分を磨く」とは人としての内面を磨くということです。「人の役に立つ」とは「何かをしてもらう立場」から「何かを与える立場」になること、「誰かに支えてもらう立場」から「誰かを支える立場」へと変わることです。

皆さんは4月から「学生」になります。生徒ではありません。学生とは自ら学ぶ自立した学習者です。ぜひこれからも学び続け、自分の生き方を自分で切り開いてください。「こうあらねば」というのはありません。生き方は人それぞれです。ただししっかりと生きてください。

結びに皆さんの母校となる小松明峰高校はこれからの歩みに心からのエールを贈ります。皆さんの未来に幸多からんことを祈りつつ、式辞といたします。

令和四年三月二日

石川県立小松明峰高等学校長
桐生 裕三